

## 漢字(解字)朝礼を中心に

出東小学校の六年生を担当して、他の小学校の児童と比べて驚いたのは次の点でした。

- ・国語に限らず、音読の声が大きく、はっきりしていること。発表能力を身に付けていること。
- ・小学生特有の“拾い読み”がないこと。
- ・漢字に対して拒否反応がないこと。過去に何度も経験した「そんな字ならっていない!」「なんと読むの?」等の子どもたちの声を耳にしないこと。
- ・辞書を使うことに抵抗を示さず、気軽に利用すること。
- ・したがって、読書にも積極的に取り組むとともに、学習全般を通じて子どもたちの反応がしっかりしていること。
- ・どの教科の教科書も、よく読めること。

これらの点は、ここに赴任するまで、「出東小学校 = 漢字貼り」、という程度の認識しか持ちあわせない転入教師にとっては、驚きとともに大変な感銘を受けたところでした。出東小においては、特定の児童ではなく、ほとんどの児童が漢字を上手に、思い通りに使って文を綴っているのです。その後、子どもたちと接触が増すごとに、多方面にわたっての「漢字貼り」の効用と、その定着を見ることができました。

また一般に音読を指導するにも一苦労な高学年が、漢字を何の抵抗感もなく、辞書を使用しないで書くこと、いや書けるということは、「お話朝礼」「解字朝礼」「漢字貼り」という長い漢字教育の積み重ねがあったからでしょう。それも無理強いをしないで、自然に習得させるという方法によって、このような子どもたちを育てあげたといっても過

言ではありません。最近、子どもたちが、とかく自分の考えを正しく伝えることができないといわれる時に、それを無理なく自然に身に付け、また“生活”の中に漢字を生かしている出東小の子どもたちは、たいへん幸せなことと思います。

山東小の六年生の「漢字朝礼」は“解字”が中心です。漢字は論理的に構成されていて、分析、総合の手順をふんで「偏」や「旁」の意味をおさえると、高学年の児童に納得づくで、ずっとわかりやすく教えることができます。ですから、本来論理的な思考力が発達する高学年の児童にとっては、興味や関心をもって取り組めるはずです。

しかしながら「漢字朝礼」も六年生になりますと、児童の方が「またか!」という気持ちになりがちで、あまり解字のわかりきった漢字は意欲を示さないし、逆にむずかしい漢字では考えようとしないのが、今の六年生の実体です。

また一方教える側はどうしてもワンパターンになりがちですから、そのため「解字朝礼」で指示する漢字は慎重を期して選ばねばなりません。

そして時にはゲーム的な要素を取り入れてやると、大変よろこび雰囲気がちがってきます。さらに子ども同士で“解字”をやらせてみることも、高学年では有効な方法の一つです。

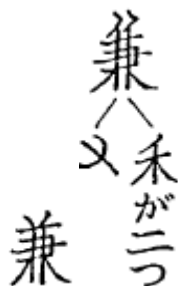
こうして「漢字朝礼」で学んだことが、読書をする時、わからない漢字にぶつかったときに、生きた力となって発揮されるようです。ともかく、あせらずくり返し、くり返しやることでしょう。

六年生は一年次から「漢字貼り」や「お話朝礼」、そして「解字朝礼」を積み重ねてきた子どもたちです。特に五年生の時には、漢字の学習が総合的にできるように「漢字学習カード」を作って学習をしました。

そこで、一学期は六年の新出漢字を中心にして漢字の成り立ちを勉強し、さらに熟語作りへと発展させることを試みました。以下、簡単に要点を記しましょう。

### (一学期)5月21日 兼(提出漢字)

「兼」。音では「ケン」、訓では「かねる」。



もとの字を示しながら「禾」と「手」について考えさせたら、二本のイネを一諸にしてもつ、という結論にたどりつきました。そこで、兼は「ふたつ以上を一緒に合わせる」「かねる」という意味を押えてから、熟語や短文として「兼業」「兼用」「兼備」「兼務」「大は小を兼ねる」などが出てきました。最後に「昼夜兼行」について、どう読むのか、どんな意味なのか聞いてみましたが、読みだけで時間切れになりましたので、意味は次週の課題としました。

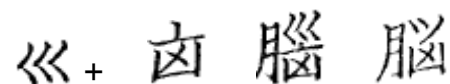
### 5月28日 閉(提出漢字)

「昼夜兼行」についての意味を考えた後に、「閉」について「ヘイ」「とじる」「とぎす」「しめる」「しまる」の読みを教えました。

子どもから出た熟語は「閉会」「閉館」「開閉」「密閉」「閉店」「閉式」などで、指導を加えながら出た熟語は、「閉口」「閉幕」「閉門」「閉廷」「閉校」「閉鎖」などです。

### 6月11日 脳(提出漢字)

「月」については、みんなよく知っているので、「凶」についてまず考えてみることにしました。



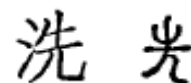
は毛に見えるという一人の発表から、これは頭の中のしわで、脳をさすことがわかりました。は頭の中の脳を包む骨の形を表わしたもので、肉月と合わさって「脳」となりました。

またこの時間には「月」についての関心が強かったので、「月」に関する字を黒板に書かせました。児童が書いた字は「腹」「胸」「肺」「背」「肌」「脇」などです。

### 6月18日 鋼(提出没字)

「コウ」と多数が読めたのですが、「はがね」と読めたのは少数でした。「岡」については山につながりがあるとヒントを与えてもなかなか考え出せないで、かたく平らな、高い台地を表わす「岡」から、かたくてしょうぶな意味があることを指導した後、「綱」「剛」についても検討しました。その後、子どもから出てきた熟語には「鉄鋼」「鋼鉄」「鋼管」などがあり、さらに「精鋼」「鋼材」について話をしました。

### 6月25日 洗(提出漢字)



「先」について、人が自分の足先を水で流してすすぐ、あらうと解字しました。熟語は「洗顔」「洗面」「洗剤」「洗濯」「水洗」などが出ました。

## 7月2日 補(提出漢字)

## 補 甫 畱

「甫」は、やぶれたさくをつくろうことを表わし、「補」は衣をつくろうことを意味し、このことから、つくろう、おぎなう意味になることを指導しました。出てきた熟語は「補強」「補助」「補習」「補導」「補給」「補欠」「補修」などです。

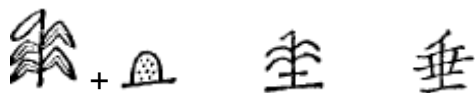
以上が、一学期中に行なった六回の解字朝礼についての記録です。朝礼のやり方は、六年生の新出漢字について解字をしながら、漢字の読み、意味、さらに熟語作りを行ないました。子どもたちが漢字の偏や旁について高い関心と知識を持っているので、解字の指導にたいへん役立ちました。

子どもたちが自主的に学習する姿勢を身に付けることをねがって、第三週日からは子ども自身が熟語を黒板に書かせるようにしたところ、漢字朝礼に対する関心がさらに高まり、積極的な学習態度が生まれたようです。

今後は同音異義の漢字を使い短文を作らせていくことで、漢字が読め、しかも文章の中で正しく使えるようにさせたいと考えています。

## 〔二学期〕9月17日 垂(提出漢字)

「垂」は「スイ」とかなりの子どもがすぐに読めましたが、「たれる」「たらず」の読みは出ませんでした。



イネの穂が垂れた形と土とを合わせた字で、実ったイネの穂が実の重さで垂れ下がっている様子から、意味は「垂れる」「下に垂れ下

がる」とし、垂を使った熟語を探させたところ、「垂直」「垂線」「胃下垂」「雨垂れ」「懸垂」「虫垂」「垂れ幕」などが出ました。

## 9月24日 郵(提出漢字)

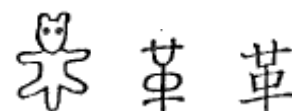
## 𠂇 かこいをした村

## 垂 遠い国のはて 郵

「垂れ下がる」と「ガケ」を合わせた字だとつぶやいた児童がいました。そこで昔、手紙は飛脚が走って行って届けていたこと、遠い国のはてに手紙を持って行き来する人のために柵で囲って作った休憩所を「郵」といったことを説明しました。「郵便」とは手紙や荷物を運ぶのを意味することも付け加えておきました。

## 10月8日 革(提出漢字)

「革」の読み方として、「かく」はすぐに出て来ましたが、「かわ」の方はなかなか出て来ませんでした。



獣の全身の皮をピンと張った様子をえがいた字から解字をし、意味は動物の皮をなめしたもの、それから転じて、あたらしくする、あらためると説明しました。次に「革」を使った熟語探しと意味の検討をしました。「かわ」の意味からは「皮革」「革ぐつ」「牛革製品」など、「あたらしい」の意味のものとして「革新」「変革」「沿革」「革命」「改革」などをあげておきました。

**10月15日 閉(提出漢字)**

「閉」の読み方として「ヘイ」「しめる」「とじる」はすぐ出ましたが、「しめる」「とざる」は出てき

ませんでした。「才」は水の流れをたち切って止める堰をえがいた字で、「たち切る」の意味があり、「閉」で門のとびらをピタリと閉じて出入りを止めることを表わすと解字しました。意味は「しめる」「しめる」「とじる」「とざる」と、「おわりにする」「やめる」とに分け、熟語探しと意味の検討をしました。 の意味で使う熟語は「閉口」「閉鎖」「閉門」「開閉」「幽閉」「密閉」などがあり、 の意味で使うものとしては「閉会」「閉館」「閉校」「閉店」「閉幕」などがあげられました。

**10月27日 裁(提出漢字)**

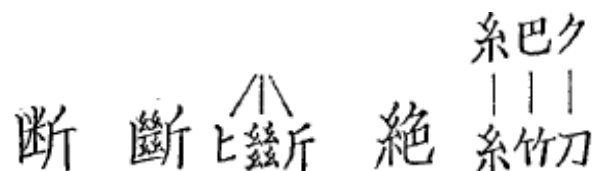
「裁」の読み方で「サイ」「さばく」はすぐに出て来ましたが、「たつ」とはなかなか読めなかったようです。解字は、まず「衣」がきものを表わすこと、「才」が刃物であることはすぐにみつけられたので、「土」は「才」と同じで「切」の意味であることを袖足して、「戔」では刃物でたち切ることを表わしていることを教えました。意味は、布をたつ、たち切る はっきりと区別をつける、よいことと悪いこととの区別をきめてしまつする、「さばく」であると説明し、熟語探しと意味の検討をしました。 の意味で使う熟語として「和裁」「洋裁」「裁断」などかおり、

の意味のものとして「裁判」「裁決」「裁定」「独裁」「裁量」などがありました。「サイバイ」という言葉を出した児童がいたので、皆にどんな字か宿題にしました。

**11月5日 裁断絶(提出漢字)**

初めに先週の課題であった「栽培」の「裁」と、すでに学習した「裁」とのちがいについて確かめてから本題に入りました。

まず、「裁」「断」「絶」、いずれも「たつ」という訓があることを思い出させた上で、次のように板書しました。



「断」は糸の束をバツサリと切ることから、続いているものを思い切りよく切ること、プツリとやめることの意味があること、「絶」は刀で糸や竹をプツリと切ることから、関係をたち切る、やめて二度としない意味があることを説明しました。おわりに「裁つ」「断つ」「絶つ」の使い方を考えさせました。命を「絶」つ、医師にとめられて酒を「断」つ、型紙に介わせて布を「裁」つ、消息を「絶」つ、などがあげられました。

**11月12日 在(提出漢字)**

[在]の読み方として「ザイ」は簡単に読めたのですが、「ある」とはなかなか読めなかったようです。「才」から水の流れをたち切って止めるせき、「在」は土でふさいで水の流れをせき止めることを表わします。意味は（水をせき止めると、じっと水が止まっていることから）ある、と いなか、とかあり、熟語探しと意味の検討で、 の意味では「現在」「存在」「滞在」「実在」「在庫」など、 の意味では「在郷」「在所」「近在」などを提示しました。

**11月19日**

今週は二字連続の漢字語の語構成を指導しました。

**(A) 週番 上陸 場所 前後**

このAグループの熟語について、まず次のように指導してみました。

- ・ 週番 1 週間の当番の意(上から順に読んでいけば意味がわかる。字間に をつけて考える)
- ・ 上陸 陸に上がる意(下から上へ読んでいけば意味がわかる。字間に をつけて考える)
- ・ 場所 ところ、位置(同じ意味の語で作られている。字間に = をつけて考える)
- ・ 前後 前と後(反対の意味の語で作られた熟語。字間に ・ をつけて考える)

この後、次のBグループの熟語をこの四つに分類させました。

(B) 校舎 善悪 品物 寒暖 教室 録音 道路 注意 美点 写生 先頭 是非

「是非」だけはどうしてもわからないようで、辞書を引いてから印を付けていました。

(三学期)1月21日・28日 量 測 計 図(提出漢字)

「はかる」と読む漢字を全部思い出してもらいました。

「量る」は、物の **かさ** をはかる **ます** の形を表わした日と、重さを意味する **重** とが合わさり、物の重さをはかること。

「測る」は、水を表わす「氵」とものさしの意味の「則」が合わさってでき、ものさしで水の深さをはかることを表わした字で、深さ、広さ、大きさなどをはかるときに使う。

「計る」は、「言」と数の意味の「十」で数を言う、数えることを表わした字。

「図る」は、「囗」が土地を区画することを、「义」は細かく区画することを表わし、区画する前にする計画の意味。

以上の解字をした後、次のそれぞれの短文にふさわしい「はかる」を入れさせました。池の深さを( )る。体重を( )る。50メートル走のタイムを( )る。人の安全を( )る。人の気持ちを押し( )る。

2月4日 覚 冷(提出漢字)

「覚める」は「見」と「𠂔(まじわる)」で、見たり、聞いたり、感じたりしたことが一つにまじわって、はっと気がつく意味で、さらに「さめる」「気づく」「おぼえる」の意味もあります。「冷める」は「冫」と「令(すんできれいな)」で、氷のようにすみきってつめたいことを表わすことを説明し、次の短文の中に漢字を入れさせました。入の声で目が( )る。湯が( )る。

2月18日 始 初(提出漢字)

「始め」は、「台」から自分で動きはじめること。「初め」は、着物を作るときにはじめに布にはさみを入れて切ること。この意味の違いを思い出させて、次に以下の短文に「始」と「初」のどちらかを選んで入れさせました。剣道大会で( )めて優勝する。七時からニュースが( )まる。新学期が( )まる。もう一度( )めから行なう。冬休みに( )めてスキーをした。年の( )めに大社にお祭りに行った。読書を( )める。授業が( )まる。

2月25日・3月4日 納(提出漢字)

「納」は、小屋(納屋)の中に入れることから、織物を倉におさめる意味で、読みとして「おさめる」「おさまる」「ノウ」「ナン」「ナ」「トウ」をおしえました。

納 内 口

「納」を使ってある熟語として、「納屋」「納税」「出納」「納得」「納戸」

などをあげました。その他、「おさめる」と読むグループについて「収める」「治める」「修める」をあげておき、とくに「修」については、人がらを正しくする、心やおこないを正しくするという意味があることを思い出させました。次の短文を出しました。学業を( )める。本だなに本を( )める。……

### 漢字貼りについての六年生の感想

子どもたちは、一年生から「漢字貼り」をしているので、次のようなさまざまな感想をもっています。

- ・ 漢字貼りをしたためか、学年の教科書でならわない字でも読めるようになった。
- ・ 漢字が貼ってあると読みやすい。
- ・ ひら仮名でわからない意味でも、漢字を貼ると意味がわかる時が多い。
- ・ 漢字は苦手だったけれど、漢字貼りをするようになったら簡単になった。
- ・ 初めの頃は読むのも、貼るのも大変だったが、何回も出て来た漢字は、ふり仮名がなくてもわかるようになった。
- ・ 最初はいやだったが、六年生までやっていたら、だいたいの漢字は読めるようになった。
- ・ 新聞などを読んでもわからない字が少ないので読みやすい。
- ・ 親戚の人が読めない漢字も読めて自慢ができた。

以上のような賛成意見が大多数でした。この感想は、終礼時を利用し、無記名で書かせたので、子どもたちの本音といえると思います。

しかし困った問題として、「一つ一つ切って貼るのでめんどうだ」「字を貼る紙の大きさが違う場合はやりにくい」などの感想もあったが、一方「自分で漢字をみつけて貼るのがいい」といった建設的な意見もありました。

この一年間、どんな字をどのように教えようかと、ずい分迷いながらやってきました。また子どもたちにとって漢字朝礼が負担にならないか、興味があるだろうかと指導することに子どもの発言や顔を見ながら実践を重ねてきました。去年の3月4日の漢字朝礼後、子どもたちが六年間続けた「お話朝礼」「解字朝礼」や「漢字貼り」について感想を求めてみたので、次にそれを紹介して今年のまとめとしたいと思います。

### <六年間の漢字教育の感想> 石原恵美子

一年二年の時は「おはなし朝礼」、三年以上は「解字朝礼」とか「漢字貼り」で、むずかしい漢字が覚えられるようになり、読めない字も、漢字の形でだいたいのことがわかるようになりました。

小学校で勉強した漢字をもとに中学での国語もがんばりたいと思っています。

(担当 錦織豊・吾郷幸美)